

京都市における旧日本軍の毒ガス情報に関する調査について

平成 15 年 6 月 19 日
 環境省環境保健部環境リスク評価室
 室長 三宅 智 (内線 6340)
 京都市環境局環境政策部環境指導課
 課長 河村 俊夫 (075-213-0928)

旧日本軍の毒ガスに関する情報が寄せられ、京都市では直ちに体制を整備し、関係機関との協議や関係者からの事情聴取、周辺の環境調査などを行ってきた。

地下水及び土壌とも、測定値は環境基準以下であり、現地確認により現状において危険物の埋没されている可能性は少なく、本日、環境省と京都市が協議した結果、危険性は極めて少ないものと判断した。念のため、当該地で新たに工事に着手する際には関係機関へ連絡し、安全性を確保することとする。

1 京都市の対応の経緯

5月19日 旧日本軍の毒ガス兵器を埋めたことに関する投書が京都市に寄せられた。

20日 事実確認のため環境局内に調査チームを設置

21日 電話により投書人から事情を聴取 (以後随時)

※ なお、投書人は、住居を含め一切匿名を希望している。

都市計画図等関係資料を収集

22日 環境省環境保健部環境リスク評価室と協議 (以後随時)

23日 資料、情報等の整理、埋蔵地点の確認作業を開始 (龍谷大学構内と推定)

27日 第1回旧日本軍毒ガス埋蔵調査委員会 (京都市環境局及び関係部局による) を開催

龍谷大学と協議 (以後随時)

2.8日 周辺における地下水調査（9ヵ所）、龍谷大学構内での土壌調査（7ヵ所）を開始

6月 3日 地下水調査の暫定結果が判明

9日 土壌調査の暫定結果が判明

11日 第2回旧日本軍毒ガス埋蔵調査委員会を開催

16日 地下水及び土壌調査の結果判明

第3回旧日本軍毒ガス埋蔵調査委員会を開催

19日 環境省の立会いの下、現地確認

2 情報の概要

「昭和20年の終戦の2・3日前、上官の命令により、十六師団兵器部兵器倉庫の片隅5尺（約1m65cm）の地中に、毒ガス兵器を埋めた。」との投書が寄せられ、投書内容の確認を行うため、京都市が投書人からの事情聴取を行った結果、埋めたものは、「イペリットを内容物とするビン2本を入れたブリキ缶を1つ、ルイサイトを内容物とするビン2本を入れたブリキ缶を1つ」であることを確認した。

ビンの大きさは、いずれも直径約2cm、長さ約15cmの大きさで、内容物は、それぞれビンの8～9分目入っており、埋めた場所は、十六師団兵器部の営門に入った東側に建物があり、その西側ということであった。

3 現在の状況

十六師団兵器部の所在地は、現在の龍谷大学深草学舎の敷地であり、同大学関係者の協力により関係資料を検証した結果、投書で埋めたと指摘される場所には、現在5号館及び21号館が建っている（別紙1及び別紙2参照）。

また、5号館及び21号館の建設に際しては、建設地一帯を地下約7mの深さまで掘削したとのことから、上記ブリキ缶が投書どおり、この場所に埋められていた場合には、すでに除去されている可能性が高い。

なお、掘削に際しては、この場所が元兵器庫跡であったと認識していたため、不発弾などに注意して工事に当たったが、不審物はなく、気分の悪くなった作業員もいなかったことを確認した。

4 地下水及び土壌の周辺環境調査

周辺環境の安全性を確認するため、京都市において、地下水及び龍谷大学構内の土壌（別紙3参照）について調査を行った結果、地下水及び土壌とも、測定値は環境基準以下であった（別紙4参照）。

なお、今回調査を行った地下水については、いずれも飲用には利用されていない。

5 連絡先

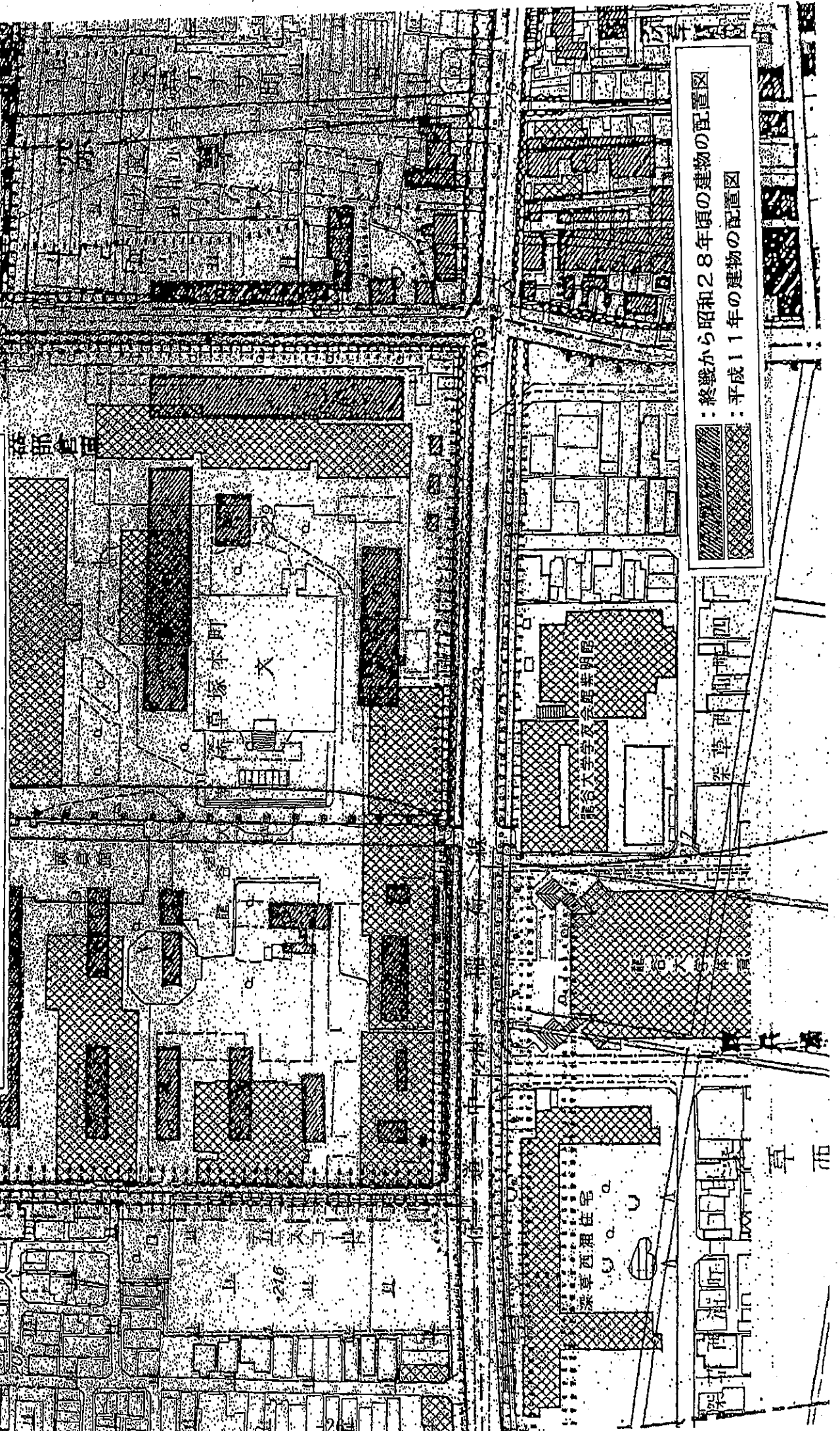
京都市環境局環境政策部環境指導課

電話 075-213-0928

環境省環境保健部環境リスク評価室

電話 03-5521-8263

第16師団の建物と龍谷大学深草学舎との配置関係図



: 終戦から昭和28年頃の建物の配置図
 : 平成11年の建物の配置図

伏

深草学舎

師団本部

草塚本町

龍谷大学深草学舎

深草西瀬住宅

市

別紙2

京阪
深草駅

大
深草

大
小學校

師団街道

京都府警察学校
京都府警察機動隊

深草今在家町
クラウンド

深草原本町
大
深草学舎
龍谷大学

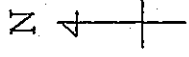
5号館

21号館

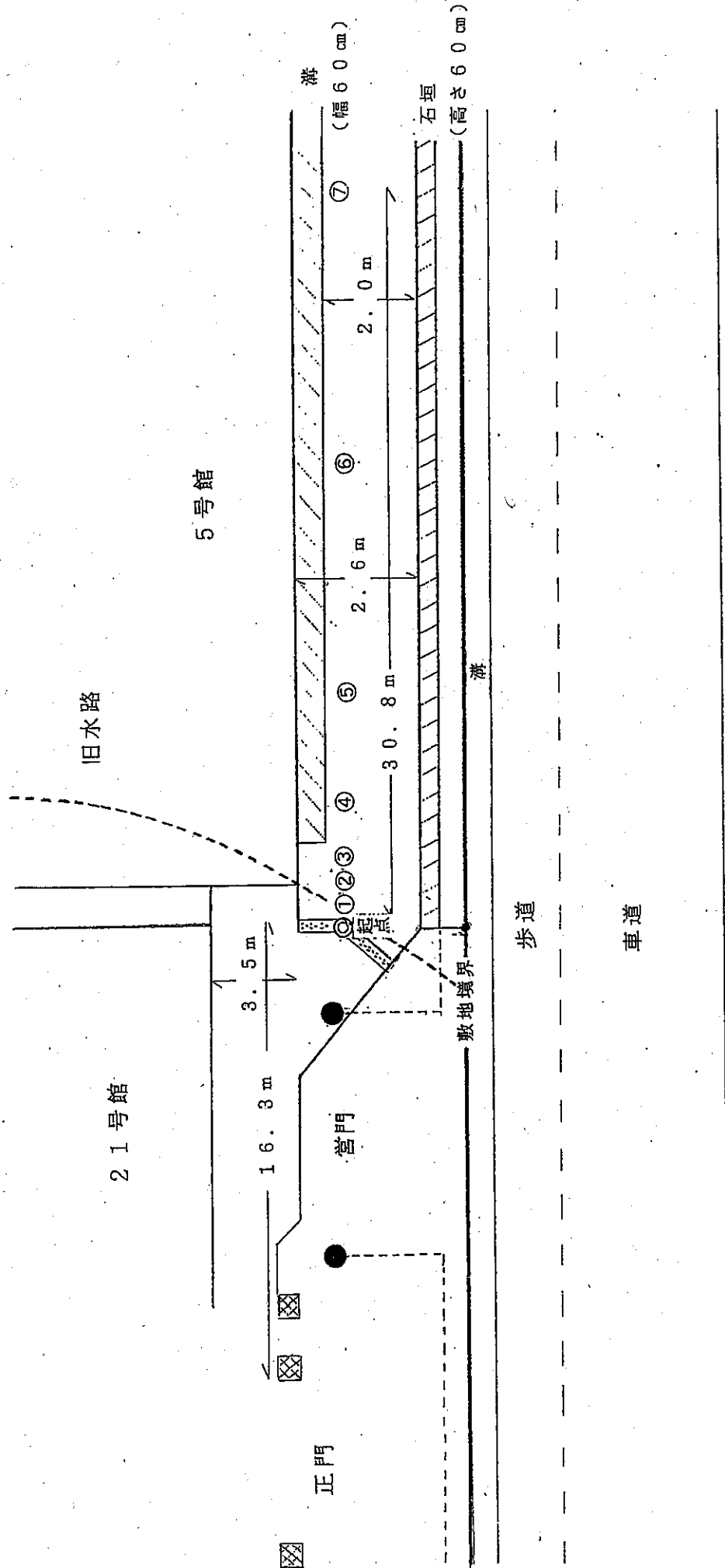
若杉道
京都府警察
自動車工務

テラスコート

都市計画基本図
(平成11年3月測図)
1:2,500



龍谷大学構内の土壌調査地点



砒素に係る地下水及び土壌の調査結果

1 地下水の調査結果（調査年月日：平成15年5月28日～30日）

No.	調査結果 (mg/l)	埋められたと思われる 場所からの距離	井戸の深さ	砒素に係る 環境基準 (mg/l)
1	<0.005	130m	5m (湧水)	0.01
2	<0.005	130m	5m (湧水)	
3	<0.005	470m	40m	
4	<0.005	530m	70m	
5	<0.005	700m	不明	
6	<0.005	520m	不明	
7	<0.005	870m	40m	
8	<0.005	400m	30m	
9	0.007	850m	90m	

2 土壌の調査結果（調査年月日：平成15年5月29日）

調査地点	調査結果		起点からの距離 (m) 注1)
	溶出量 (mg/l)	含有量 (mg/kg)	
1	0.005	<5	0.5
2	0.001	<5	1
3	0.003	<5	2
4	0.002	<5	5
5	0.002	<5	9.5
6	0.001	<5	19.3
7	0.004	<5	30.8
砒素に係る基準	0.01 注2)	150 注3)	—

注1) 起点は、龍谷大学正門から東へ16.3mの地点である。

注2) 土壌の汚染に係る環境基準

注3) 土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定基準